

ケニア

企業訪問調査レポート[3]: Panda Flowers Limited

～ 農業(花き)～

■ ケニア共和国 — 基礎データ —

- 面積: 591,958平方キロメートル [日本の約1.5倍]
- 人口: 約4,180万人 (2013年 推計値 ケニア国家統計局)
- 首都: ナイロビ / 人口約314万人 (2009年 ケニア国家統計局)
- 名目GDP総額: 552億 4,100万ドル (2013年)
- 1人あたりのGDP(名目): 1,016ドル (2013年)
- 実質GDP成長率: 5.7% (2013年)
- 為替レート: 1ドル ≒ 86.12 ケニア シリング (2013年 平均値)

出所: JETROホームページ 国・地域別情報(J-FILE)「ケニア概況(2015年1月更新)」



■ 調査実施日: 2014年 11月24日

■ 分野: 農業(花き)

■ 特徴: 欧州などへ輸出も行う花き生産農園。主要産品はバラ。“Fair trade”を重視する企業として、従業員の福利厚生や社会貢献のための“Panda Self Help Group”(互助会)を設けている。

企業概要

- 社名: Panda Flowers Limited
- 所在地: ナイロビ国際空港(Jomo Kenyatta International Airport)から115km離れたNaivashaのナイロビ-ナクル間高速道路沿いにあるフラワー・パーク内に所在。
- URL: <http://www.pandaflowers.co.ke>
- 主要拠点: Naivasha農園(全国約1,000カ所の花き店に出荷)
- 設立年: 2000年
- 従業員数: 855人(ほとんどがBOP層で構成されている)
- 作付面積: 40ha
- 主要生産物、業態: バラ切花の栽培、輸出、国内出荷
- 主要出荷先: 国内および海外(主にドイツ、オランダ、英国、スウェーデン、ベルギー、ロシア、米国)
- 社是: 顧客の信頼を得るべく改良に努めて品質を高め、品種を増やし、環境保護と業界基準を遵守する。
特にフェア・トレードを重視し、社会発展に寄与する。



会社のロゴマーク



ハウス栽培の様子

ビジネスの概要 ①

栽培するバラの主な品種

品 種(ブランド名)	色
ALOHA	多色(黄等)
ATHENA	クリーム
BOOGY	ピンク
CAREMA	クリーム
FUCHSIANA	鮮紅
H3O	ピンク
INKA	多色(黄/オレンジ)
LOVELY JEWEL	多色(白/ピンク)
RADIANCE	黄
RED CALYPSO	赤
SONRISA	黄
TROPICAL AMAZONE	オレンジ
UPPER IMPACT	赤
WILD CALYPSO	鮮紅
WILD THING	鮮紅

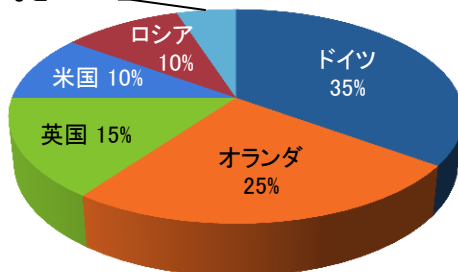


Panda Flowers社のバラ

生産量・出荷先

年間6,000万本を生産し、毎年5～8%ずつ拡大している。そのほとんどを輸出しており、輸出量に占める各仕向け国の割合は下のグラフの通り。

- スウェーデンやベルギーなど 5%



バラの選別作業

マーケティング：広告・宣伝

パンフレットの作成、配布、WebサイトによるPRをFPEAK(Fresh Produce Exporters Association of Kenya)*1を通じて行う他、ケニアで開催されるInternational Flower Trade Exhibition などの国際見本市に出展している。

*1:ケニアにおける花き・果実・野菜などの貿易組合。

ビジネスの概要 ②

競合他社

競争相手となっている国内業者は多い。主なものは以下のとおり。

社名	社名
Finlay Flowers Ltd	Aquila Dev. Co. Ltd
Finlays Horticulture Ltd	Equator Flowers Ltd
Kariki Group	OI-Njorowa Ltd,
Lauren International Flowers Ltd	Maasai Flowers Ltd
Oserian Dev. Co. Ltd	Fides Kenya Limited
P. J. Dave Flower Ltd	Liki River Farm Ltd
Primarosa I Flowers Ltd	Waridi Limited
Rain forest Farmlands Kenya Ltd	Windsor Flowers
Agriflora Kenya Ltd	Sian Agriflora Farms

日本市場とのかかわり

最近、日本企業にバラを出荷した実績があり、日本のバラのオークションにも出品した経験がある。今後更に対日輸出を拡大したい。

従業員の福利厚生

国民健康保険など国家社会保険の雇用主負担を行うと共に、“Panda互助会”により従業員の子弟に奨学金制度を設けている。

また、勤務時間が不規則な従業員のため、農園内にPanda社の社宅があり、農園の外に住む従業員には必要な額の住宅手当が支給される。



花の収穫作業

社会貢献

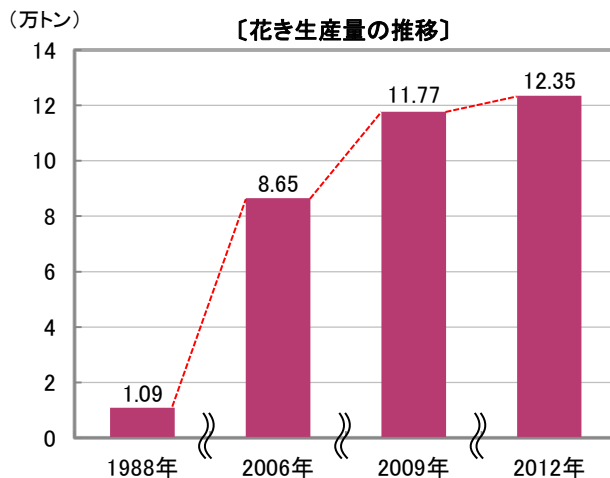
2003年から“Panda互助会”を通じ、以下の活動などを実施している。

- 近隣地域の孤児に奨学金を支給
- Panda農園周辺の学校建設や補修
- 1億ケニア シリングを投じてNaivashaに妊産婦のための女性医療センターを建設
- Naivashaの孤児収容所を支援し、ストリート・チルドレンの更正、教育などに協力
- Naivashaの環境改善のため、街路樹等を植樹

ケニアの産業に占める花き産業の位置付け

農業は、ケニアのGDPの25%を占めるが、園芸は2.63%、花き生産は1.3%を占めるに過ぎない。しかし花き生産における生産量は、1988年の10,946tから2006年には86,480tと、過去18年間で約8倍に成長し、2009年には117,713t、2012年には123,511tと、急速な伸びを見せている。

ケニア統計局が発表した2013年のデータによれば、花き輸出は124,858tで、金額にして463億ケニア シリングに上る。そのうち87.7%をバラが占め、2位のカーネーション7.4%と3位のユリズイセン1.8%を大きく引き離している。なお、バラの栽培に携わる人口は全国で約50万人に上る。



市場における課題

他社との競合、生産コスト上昇に加え、輸出が中心となっていることから為替レートの変動や欧州市場、特にオランダでの関連制度の変更が障壁となっている。

ケニアの花き市場

- ケニアの花き、ひいては花きの他、果実、野菜の生産も含む園芸作物の輸出は、リーマンショックの金融危機を通じて経験を積み、国際競争力を強化したといえる。
- ケニア産花きの品質は欧州市場に受け入れられており、同市場が同産業を支える基盤となっている。
- 対EU輸出の65%はオランダでのオークションを通じて取引される。

将来の展望

ケニア産の花きは、EU市場において38%のシェアを有するなど、冬季の温室栽培で製造費のかかる欧州産、欧州への輸送費がかかる南アフリカ産と比べ、コストが割安なこともあり、国際的な競争力を有する。Panda Flowers社では国内および海外においても品質に定評があり、欧州ではドイツのスーパーマーケットへ直接販売を行っている実績もある。

今後、ケニアの花き産業全体として、花き輸出における日本やロシア、米国の台頭を受け、中東およびアジアへの輸出拡大を模索する向きもある。この動きの中で、既に欧州市場で成功を収めているPanda Flowers社の将来展望は明るいと見られる。

